

芸西村における伝統的製糖技術の継承者に関する研究

1220455 熊野悠斗

指導教員 中川善典

研究背景

既存研究の論文「民芸・民具のライフ・ストーリー研究 ―高知県芸西村の竹の子笠を事例として―」では、高知県芸西村の伝承館という場所で行われている伝統産業、竹の子笠作りについて調べられていた。そこではインタビューを実施することで、竹の子笠の作り手である宮崎直子氏の、竹の子笠を後世に残していこうとする動機が明らかにされていた。

研究目的

本研究は、高知県芸西村の伝承館で行われているもう1つの伝統産業、黒糖作りについて調べる。黒糖作りの担い手である猪野司孝氏に関してはどのような動機を持っているのかを明らかにする。また、それがライフストーリーのどのような要因から生じたのかを明らかにする。この2点を明らかにすることを研究目的とする。

調査・分析方法

高知県芸西村で黒糖作りを行う猪野司孝氏を対象者に設定し、これまでの人生のエピソードや思いなどを聞くためにインタビューを実施する。そこで、生まれた疑問については次回のインタビューで解決していく。インタビューでは音声を録音し、それを書き起こしする。それをもとに猪野司孝氏のライフストーリーを記述して、研究目的を達成するために考察を行う。その過程で疑問が出た場合は、ライフストーリーをもとに考察を行い、解決していく。

分析結果

インタビューによって猪野司孝氏のライフストーリーをまとめる中で、様々なクエスチョンが生まれた。そのクエスチョンを解決していくことで、猪野司孝氏の黒糖作りを後世に残していこうとする動機が明らかになった。

考察・結論

猪野司孝氏は、黒糖作りが行われている伝承館の、伝統産業を後に残していくという目的をないがしろにしないことが自分の役目だと考え、この役目を果たしていこうとする思いが、後世に残していこうとする動機となり、組織の一員として自分の役目を果たすという一貫した思いが動機発生に大きく関係していた。このように研究目的を達成していく中で、既存研究の宮崎直子氏との相違点と共通点を見出した。これらを踏まえて、他の事例においてもライフストーリーの探索が重要であることを提言する。